

令和6年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

有機農業で持続可能な交流・定住を～農は最高の教育資源～

○集団等の名称 特定非営利活動法人 アグリやさと（代表 柴山 進）

○所在地 茨城県石岡市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

石岡市八郷地区は、茨城県のほぼ中央部、首都圏からおおよそ70km圏内に位置し、筑波山等の山並みに三方を囲まれた盆地型の地形を形成している。たばこと養蚕が盛んだったが、昭和60年代のたばこ減反政策や中国からの絹製品の輸入の増加により、生産農家が減少した。本地域を管轄するJAやさとでは、昭和51年から生協産直による野菜づくりへの転換を進めており、平成9年に消費者に安心安全を届けるために、有機栽培部会を設立した。

・むらづくり組織の概要

JAやさととは平成9年の有機栽培部会の設立後、平成11年には新規就農研修農場「ゆめファーム」を設置し、年間数多くの新規就農生産者の育成や中学生等の農業体験の受入れを行ってきたが、JAの担当職員の負担の増加により体験受入事業の継続や新規就農研修の拡大が困難なことから、別組織で担っていく必要性が生じた。

こうした中で、石岡市、JAやさと、生協などの関係機関で検討を重ね、平成20年に「特定非営利活動法人アグリやさと」が設立され、農業体験を受入れる「朝日里山学校」、新規就農者の研修を行う「朝日里山ファーム」の管理運営を担っている。

・むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

- ① 朝日里山ファームでは、1年1家族の受入れを行い、2年間有機農業の研修を行った後、地域内で独立してもらう仕組みであり、これまでに5家族がJAやさとの生産者として独立している。
- ② JAが運営するゆめファーム卒業生も含めて、JAやさとの有機栽培部会は32名のうち26名が新規参入農家で、朝日里山ファームは有機農家の育成に貢献している。
- ③ 朝日里山学校は、食体験、農業体験、工芸体験、林業体験の受入れを行い、令和5年度には小中学校、高校、生協組合員など合計で約12,000名を受入れた。

（２）生活・環境整備面

- ① 廃校は当時の姿のまま朝日里山学校として利用され、雑草などに覆われていた遊休農地は体験農場に整備されるなど、美しい農村景観に生まれ変わったことで、地元の方には喜ばれ、来訪者には感動を与えている。
- ② 有機野菜作りを体験する親子は、地元生産者と交流しながら、有機栽培を体験することで、有機農業の理解者になっている。
- ③ 就農相談会に積極的に参加し、研修生の発掘や常時就農相談をしている。また、空き家情報の提供によってイチゴ生産者などの移住につなげている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、廃校を改修した体験型観光施設「朝日里山学校」を核とし、小学生や中学生の農業等の体験受入活動による農業・農村への理解の醸成に努めるとともに、地元住民と都市住民等多くの関係者との連携により、農地の保全、農村文化の伝承に寄与している。更には有機農業を推進するための新規就農者の育成・確保に取り組むなど今後の更なる発展が期待できる。継続した事業運営の確立に向け、後継スタッフの調整・確保などの検討も進めており、今後の展開方向も明確化している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。